

「お客様から信頼され続ける」

『100年企業』へ向けて

「家を作る役割」から「暮らしを守る役割」へ

(株)吉田建設 代表取締役 吉田 光伸 氏

株 吉田建設

# 《シリーズ》 活き生き企業訪問記

## 「お客様から信頼され続ける」

## 『100年企業』へ向けて

「家を作る役割」から最高の住宅性能で「暮らしを守る役割」へ

(株)吉田建設 代表取締役 **吉田 光伸氏**

自宅も社屋も仮設のまま  
地域のために13年

陸前高田市の(株)吉田建設

は、1951年の創業以来、建築のプロ集団として技術を磨き、最新の建築技術に取り組み続け、地域から高い信頼で支えられてきました。現社長の吉田光伸氏は東日本震災で被災し、会社の社屋も自

宅もすべて、津波に流されてしまいました。当時社長であられたお父様を亡くされ、以来10年以上も仮設住宅で過ごしてきました。

その間、自宅も会社の社屋も仮設のまま、地域の復興のために全力を尽くしてきました。特に地元陸前高田からの信頼は厚く、市外から多くの大手住宅メーカーや建設業者が入る中でも、津波被害に



あった個人のお客様の新築建て替えやリフォームなどの受注が続き、これまで息をつく暇もないほどでした。漸く自社の社屋の新築に本腰を入れたのは、震災から13年の経過した昨年のことでした。

経営理念に込めた想い

吉田氏がはじめて経営指針づくりに取りくんだのは、今から15年前の2009年に遡ります。当時は内容に確信が持てないままでした。しかし経営理念に込めたその思いは、ずっと自身の中に燃やしたまま、あり続けていました。岩手同友会では、震災から

の企業と地域復興への取り組みとして2013年から6年にわたり、エネルギーシフト(ヴェンデ)の欧州視察を試みました。岩手から85名もの方々が海外に渡る中で、吉田氏は、復興に全力を尽くし多忙を極める中で、自ら独学でエネルギー性能の高く快適な暮らしが実現する高断熱高気密の住宅について、学ぶことを決意します。

灼熱の30度を超える外気でもエアコンなしで快適に

その後は、あらゆる住宅関連の勉強会に参加。

県外からも省エネルギー住宅や高性能住宅施工の専門家を招き社内で技術学習を重ねるなど、とりわけ岩手県内での高気密住宅への知識と技術、経験は飛び抜けて高い建設会社として注目されるようになりました。

こうして「お客様に後悔してほしくない」その一心で住宅性能にこだ

わってきたお陰で、今では従来の技術を取り入れた建築はもちろん、ゼロエネ住宅や長期優良住宅など厳しい建築基準を満たした家も建てるのが可能です。その背景に、社員の技術向上のために日夜学び合ってきた積み重ねが生きています。

昨年新築した社屋は、「BELS」という建物の品質、省エネ性能を示す評価基準(一次エネルギー消費量をもとに、第三者機関がエネルギー性能を客観的に判断したもの)で最高ランクの5つ星基準の性能を目指しました。



7月23日に開かれた岩手リ  
アス支部の訪問例会は、早速  
その新社屋を訪問し吉田氏の  
報告を聞く体験型例会となり  
ました。真夏の30度を超える  
外気温の中、20名が部屋に入  
り、扇風機もエアコンを付け  
なくても、室内は摂氏26度を  
超えません。その快適さを体  
感した参加者から「エアコン  
がないのに暑くない！」と驚  
嘆の声が聞かれました。

## 根本から変わった

### 建築への概念

吉田氏は、「震災でこれま



での建築  
の概念が  
根本から  
変わっ  
た」と話  
します。  
それまで  
の「家作  
る」とい  
う役割割  
から「暮  
らしを守  
る」とい  
う役割に  
変わった  
ことで、  
地域の  
方々の不  
安を取り  
除くために最先端の断熱技術  
を自ら学び、社内で勉強会を  
重ね、最高の住宅性能を提供  
できる技術者集団をめざした  
そうです。その挑戦の歴史が  
生んだ、新社屋だった、と熱  
く報告しました。

今後のビジョンとして「お  
客様から信頼され続ける  
『100年企業』となる」こと。  
そして、「建設会社という固  
定観念を捨て、『生活サポ



ト企業』をみぞす」こと。吉  
田光伸氏の思いは、東日本大  
震災を経てすでに100年後  
の未来を見据えています。

※11月19日開催の第22回経  
営研究集会in気仙では、希  
望者に見学分科会としてお披  
露目予定です。

## 岩手同友会

### 第22回経営研究集会in気仙 実行委員会

11月19日(火)大船渡・陸前高田4つの分科会で開催決定!!

2018年11月に気仙地域で  
開催以来、6年ぶりとなる経営  
研究集会in気仙が、来る11月  
19日(火)、大船渡プラザホテル  
をメイン会場に行われることが決  
定しました。今回は岩手リア  
ス支部の設置ということから、「分  
科会報告者の全てを支部会員か  
ら出そう」と実行委員会で議論  
し、陸前高田での見学分科会を  
含め4つの特別分科会を決定し  
ました。

### 社員も一緒に参加し学び合える 「社員参加型分科会」も企画

中でも特長的なのは、社員と  
一緒に参加し議論できる「社員参  
加型分科会」を設けたことです。  
岩手リアス支部では、「経営者は  
毎月例会で学ぶことができます  
が、社員にとっては、同じ地域に  
住んでいても、他社の社員とも一  
緒に関わり合う機会ほとんどな  
い。交流と学び合いの時間を社員  
にも」との考えから、社員ランチ  
交流会を二ヶ月に一回開催してき  
ました。



社員ランチ交流会も、経営者  
と同じく自主運営をめざしてお  
り、最近では経営も報告者も社  
員が主体になってできるようにな  
ってきました。こうした土壌もあり、  
今回の分科会設置となりました。  
実行委員長の大崎博晃氏(有  
ニココ総合企業 代表取締役)  
からは、「今回は全県から皆さん  
をお迎えしよう、1年前から  
岩手リアス支部で準備してきま  
した。現地に足を運んでいただき、  
ぜひ気仙の熱気を感じていただ  
きたい。皆さんお待ちしています！」  
とメッセージが届きました。どう  
ぞご期待ください。

# 中小企業の未来と持続可能な地域づくりを考えるつどい in盛岡

## 盛岡市での中小企業振興基本条例制定へ向けての第一歩

### 地域の未来へ向けた羅針盤づくりへ

岩手同友会ではこれまで、盛岡市長、商工労働部長をはじめ、中小企業振興基本条例



について、数々の懇談を重ねてきました。今から19年前の2005年に、当時の商工労働部長と職員の皆さんと企業

経営者の勉強会を初めて開催。「盛岡市のような県を牽引する都市には、事業所の99.9%を有する中小企業の存在を明確に位置付ける中小企業振興基本条例が必要」と確認してきました。

しかしながら、なかなか実現には遠く、東北6県の県庁所在地の中核市のなかで盛岡市だけが制定されていない状況が続いていました。

そんな中、満を持して8月27日(火)に開催されたのが「中小企業の未来と持続可能な地域づくりを考えるつどい in 盛岡」です。地域の中小企業が地域に新たな産業を生み出し雇用の多くを支える「インフラ」としての存在であること、地域

経済やまちづくりを牽引する大きな役割を担っていることへの理解を深め、地域全体で中小企業を応援する風土づくりへ向けて、ともに考えることを目的に、盛岡商工会議所で、盛岡市と岩手県中小企業団体中央会、岩手県中小企業家同友会共催で開催されました。

### 中小企業が主役となる地域づくりへ向けて

盛岡市からは担当課だけではなく、課をまたいで12名が参加、なかにはインターンシップ中の大学生まで参加し、中央会、岩手同友会からの16名とあわせ、総勢28名での大意見交換会となりました。

初めに、問題提起として、岩手同友会事務局長の菊田氏から「中小企業振興基本条例の実践で魅力的で持続可能な盛岡を実現しよう」をテーマに自治体の条例制定や制定後の活用事例について詳しく紹介しました。

条例を制定することで、地域における中小企業の役割や存在意義を明確に見える化できること、中小企業が主役となり地域資源の活用や事業創

造のきっかけをつくった事例など、盛岡地域での経済循環に活用できる様々なヒントが話題にのびりました。

### 経営者と胸襟を開いて語ったのは初めて

グループ討論の発表では、商店が元気に躍動する中心市街地の活性化の必要性や岩手同友会と盛岡市が共催で19年継続して実施してきた高校生スキルアップ支援事業への評価、企業の経営課題を本音で出し合い解決できる仕組みづくりなど、実践に向けた様々な意見が出されました。

参加した盛岡市の職員の皆さんからは、「経営者の皆さんとこうして胸襟を開いて話したのは初めてだった。地域への熱い気持ち、愛情は私たちも地元経営者もまったく同じだと感じた。」「あまり乗り気ではなかったが、声をかけられ参加してみたら本音で話せる雰囲気意外に面白かった。条例についてはまだよくわからないが、今後も継続してこうした場ができることに期待したい。」「共通言語としての理念条例を制定するからには、特に私たち中小企業に

こそ、『よい企業をつくっていく』という責任が生まれるというところが印象的だった。まさにバトンを受け継ぐのは私たちなんだと実感した。」「制定した理念を実践するための仕組みづくり、体制づくり、人づくりまでつなげる必要性を感じた。」「盛岡市としては理念を組織におとしこんでいくための全庁を巻き込んだ一体的な取り組みを促す必要性を感じた。」などの声がありました。

### テーブルを囲み「一緒に語り合える幸せ

経営者の皆さんからは「行政の皆さんと一緒に話せたのは大きな一歩。まだまだ私たちの本音には触れていないので、続けて語らう中で一緒に未来を語れたら本当に素晴らしい。」「行政の皆さんも私たちも社員も盛岡市民の一人。少子高齢がますます進む中で、どうしたら経済の視点で難局を打開できるか、共に語れることを願ってきた。立場を越えて話せることが何より嬉しい。」「他人事でなく主体的に取り組むためにも、社員が使命をもって働ける職場づ

くりを目ざすことでよい地域づくりの第一歩になる。」などの感想があげられるなど、グループ討論の盛り上がった様子が聞かれました。

盛岡市職員と中小企業団体、地元中小企業経営者が一緒にテーブルを囲んで、持続可能な地域づくりをテーマに、じっくり時間をかけて展望を語りあったことは、今後の新たな盛岡市の未来に向けて大きく前進できた貴重な時間になりました。

### 基本はじっくりと顔を合せて語り合っていくこと

岩手同友会政策委員長(株)



平金商店 代表取締役) 平野佳則氏は「こうして行政の皆さんと経営者が一緒に語り合える場が実現するのは長年描いてきた夢でした。これから実現する中小企業振興基本条例が次世代に渡ってきちんと機能し、実行性あるものにするためには、今後構成される振興会議や円卓会議等で継続して企業と行政がこうして常に声を交わしていく必要があるのでは。」と今後の展望もふまえ、まとめていただきました。

盛岡市商工労働部経済企画課長 小野哲治氏は、「本来はスピードをあげて取り組むべきだが何よりも対話が重要ということを、今日一日の皆さんの表情から実感した。地域の未来について一体となって共に考えるこのような貴重な機会を、急ぎながらもじっくり皆さんと向き合っただけにしている。」「と、次回のワークショップの開催を約束し、今後の展開に期待できる有意義な時間を共有しました。

## 「3日間260名で考えた、持続発展し続ける紫波の未来」 『紫波一中3年生190名と地元企業、行政、金融機関70名が参加』

9月第一週目の3日間、紫波一中の3学年6クラスを対象に、持続発展し続ける紫波の未来をSDGsの視点で考えるワークショップを開催しました。

紫波環境(株)代表取締役 瀬川峰雄氏(岩手同友会代表理事・県央支部長)からの提起で昨年からスタートした事業ですが、今年は更に規模を拡大し3年生190名と地元企業、行政、金融機関70名が参加する、大きな取り組みとなりました。



呼び掛け人の瀬川氏

### 中学生と地元で働く大人と 真剣に向き合う場

瀬川氏は一枚の企画書をもとに、「子どもたちと地域で働く大人が一緒にじっくりと向き合う機会をつくりたい」と半年前から地元企業一軒一軒まわり参加を呼びかけ、経営者だけではなく、中学生の親の世代も参加して欲しいと、社員の参加もお願いしてまわりました。紫波町役場では経済関連や森林・環境に関わる部署、教育、まちづくりに関係する部署など部局を越えて呼び掛け、金融機関からも支店の行員の参加をお願いしてまわりました。

最終的には70名の地元で働く「大人」が参加いただくことになり、中学生2、3人一人の大人が付くことで、70グループの配置で進めることができました。

### 自分の仕事の楽しさを 話してみよう！

呼び掛け人の瀬川氏は、「私

たちが中学生の皆さんの新鮮な気持ちから学ばせていただく機会と思っています。こうした場をくださった先生方に感謝したい。」との挨拶があり、ワークショップがスタートしました。

最初はお互いに緊張感が漂う雰囲気ですが、進行役から自己紹介で「『大人』の皆さんは、自分の日常している仕事の楽しさを10分間でグループの中学生に伝えてください。」との呼び掛けで、一気に教室全体に笑いが起き、和やかにスタートしていきます。

1クラス3時間、1学年6クラス合計18時間に渡る探究の時間を生かした授業のなかで、どのクラスも最後は「大人」の話が止まらず、校舎から出た後も何人かで話している姿がありました。中学生から刺激を受け、世代を越えてともに地域の未来を語り合った、充実した時間となりました。(次号詳細を予定しています)

# 支部・地区通信

## 県央支部

### スポーツ振興で

### まちづくりに挑戦

8月22日(木)オガール大スタジオにおいて県央支部8月例会が開催されました。報告者は岡崎建設(株)代表取締役 岡崎希裕氏より「会社地域が共に成長していくために」スポーツ振興でまちづくりに挑戦」というテーマでご報告いただきました。

### 「バレーホールのまちプロジェクト」で町を元気にしたい！

岡崎氏は大学卒業後、大手建設会社入社し、数年後実家



岡崎氏

の岡崎建設に戻り会社を引き継ぎます。その当時岡崎氏の兄が紫波町のオガールエリアの推進に関わりまちづくりのハード面に取り組み進めていました。その影響で弟の岡崎氏は学生時代バレーボール選手だったこともあり、ソフト

面から町を盛り上げようと「バレーボールのまちプロジェクト」に取り組みながら、自社でも社会人のクラブチームを持ち日本一になるまでに成長します。そこから必ずこれで紫波町を盛り上げていくぞという自信ができました。

### すべては若者が

### 「愛着」をもてる町に

「このプロジェクトは町のため、そして若者が誇りと愛着を持てるまちづくりをすること、人口減を食い止めることができる。これこそが「地方創生」だと思います。」と岡崎氏は話します。その取り組みの1つとして、バレーボールの試合の休憩タイムに地域芸能の佐比内金山太鼓

や、地元の小中学生が参加できるダンスなど、たくさんの人たちに見てもらおう場所づくりをしました。これは、最終的にこの地で生まれ育った子どもたちが、将来この町を離れても忘れずに応援してもらいたいという思いからです。

### 自社を通して貢献していく 真の「強さ」を信じて

しかし、これは自分一人では決してできない、絶対そこに関わる人たちの力を借りなければ実現できません。その実現のために紫波町が健全な町、元気のある町、住民がその町に誇りを持てるようになることです。そして自社を通して貢献していく真の「強さ」がでてくると信じて、一人でも多くの人たちにこの町に住んで良かったと思えるように頑張っていきたいと地域愛に満ちた岡崎氏の報告となりました。

## 岩手リアス支部

8月28日(水)岩手リアス支部8月例会が住田町のケラッセで行われました。「経営者として貫く大切なものは何か」をテーマに、(株)五日市塗



晴山氏

装工業 会長 晴山祐一氏にご報告をしていただきました。

### 掃除とマナーの徹底

晴山氏は1989年に入社後、営業と現場監理を一人で担当し、1998年に代表取締役役に就任しますが、塗装業界の厳しさを目の当たりにし、3000万円の赤字を計上します。根本的になんとかしなければという思いとともに理念の必要性を強く感じたことをきっかけに40歳のときに同友会に入会します。

晴山氏の最初の10年間は、まずは下請け体質を脱却すべく、チラシをポスティングするなど、少しでも元請けを増やし売り上げを伸ばすための努力を徹底しました。ほかに、完全週休2日制を取り入れ、社員教育や福利厚生にも積極的に取り組みました。

また、周りを見渡し、つぶ

れている会社は汚いと気づき、まずは自社のトイレ掃除を自ら始めます。当たり前のことを当たり前にやる、だから毎日掃除をしてから仕事を始めるなど、掃除を通して人間としてのマナーを徹底して貫いてきました。

### 断捨離して見えてきたこと

そうした中、晴山氏に病が襲います。会社にも同友会にも出られない日々が続く、仕事も休みもスケジュールを組める会社にしようと決意します。経営は掃除と同じであり、「辞める 捨てる 諦める シンプルに！」を貫くことで、見えない部分が見えるようになります。考え方がシンプルになり、自分を客観視できるようになると言います。

自然体というものを探索し、ほどほどにすることを意識した晴山氏は、人間関係のトラブルもなくなり余裕をもつことで毎日が楽しくなると穏やかな笑顔で振り返ります。

### お金にも時間にも心にも 余裕をもつこと

当たり前のことを丁寧

ツcottと取り組み続けることでジグソーパズルが出来上がるように会社の売り上げも上がっていく、息子への事業承継もできました。現在は社長という立場から離れ、役割は、日常の何気ないことにドラマとロマンを見つけ地域に広めていくことと語る晴山氏の姿に、参加者からは羨望の眼差しと感嘆の声に包まれた例会となりました。

## 盛岡支部

9月17日(火) アイーナ812会議室において盛岡支部9月例会が開催されました。

報告者は(有)くらし建築工房代表取締役 中村喜一氏より「企業存続の危機を乗り越え、地域からあてにされる企業へ」～お客様と共に笑顔のあふくらしを～というテーマでご報告いただきました。

## 厳しい状況から 同友会に飛び込む！

中村氏は大学を卒業後、大手住宅設備機器の会社で約10年間勤務後、もともと自営業の家で育ったこともあり、自分で起業したいという思いで平成13年に地元盛岡でくらし

建築工房を創業します。当時は依頼も多く順調で自社にショールームを構えたり、ラジオ番組を持つなど華々しい日々でした。しかし3年後から急激に売り上げが落ち結局、資金繰りに奔走する状況になりました。悩んだ後、友人から同友会を勧められて入会します。「本当に業をもすが、思いで、もうここしかないと思いました。」と当時を振り返ります。そして第3期経営指針を創る会に飛び込みました。

## 自分の進むべき方向を決めると「希望」につながる

その中で「あなたは何のために経営していますか」と問われ自分と向き合いながら、理念・方針・計画を必死で創り上げ改めてスタートを切ります。しかし思うようには業



中村氏

## 『会社は社員を 幸せにするためにある』

その結果、平成25年には売り上げが初めて1億円を超え6期連続黒字化するまでになり、「山岸地域」から頼られ、困ったことはくらし建築工房へ相談すれば解決するなど真に地域からあてにされる成長する企業になりました。「私たちの業はおお客様があつて成り立ちます。そして、働く社員と共にこの思いを語りあつてきました。私は『会社は社員を幸せにするためにある』と思っています。この思いを継続し、地域と社員とお客様と一緒に歩んでいく企業として邁進していきたい。」と報告されました。

## 盛岡支部 第1・2地区合同訪問例会

### 岩手の誇れる ベアレンビール工場を見学

8月29日(火)盛岡支部第1・2地区合同で、(株)ベアレン醸造所 雲石工場を訪問する例会が開催されました。普段工場見学は一般には行わない中、特別に同友会のために社長の寫田氏より説明を受けながら見学させていただきました。見学された方々からは「普段飲んでるビールがこんな丁寧な工程で作られていることを知ることができ、感動した。」など岩手の地ビールの素晴らしさを知った地区会となりました。



## 盛岡支部 第4地区合同訪問例会

9月5日(木)川口印刷工業株式会社に、盛岡支部第4地区の企業訪問例会が行われました。最新鋭の充実した設備が揃う工場内を見学後、代表取締役の久保正路氏をはじめ計4名の役員の方に会社の歴史や現在の取り組み、これからの展望について説明していただきました。プロフェッショナルの企画力や情報編集能力を活かし、地域の活性化に寄与する情報誌を発行するなど、地域に根差した各種取り組みを目の当たりにできた貴重な訪問例会となりました。



## 素心知困

小中高校の授業でのこと。初めて教室に入ったときの雰囲気、仲がいいクラスなのか、互いに壁があるのか、一瞬で判断することができません。▼声の大きいボスがいったり、素知らぬ素振りの女子が多かったり。そんなときの情報収集は一番前でじっと目を見てくる生徒さんの表情です。▼「こんにちは」と声をかける。ふっと笑顔になるときと、無表情で返してくるときと。▼先生方が問題視するほど、互いに仲の悪い学級に行ったときのこと。ドアを開けると早速言葉の端々に揶揄するような投げかけが。そんなとき、発したサインは決して見逃しません。▼表情や言葉を変えながら、さながら役者になりきって一人ひとりの目を見て問いかける。みるみるうちに全体の雰囲気が変わっていきます。▼ほんの僅かな時間で「私」と生徒それぞれの糸と音が立てるようにピンとつながっていく。組織、チームを担うリーダーの役割の大きさと責任を考えさせられる日々です。

■本紙掲載の例会や諸事業には、所属支部に関係なくどこにでも参加できます。ご連絡下さい。■例会や役員会などのカレンダーと事業案内を随時更新しています。■本紙掲載事業への出欠返信は、同封のファックス返信用紙またはedyuをご利用下さい。



**めだか**

有限会社いわてにっかコミュニティ企画

(事業内容) デイサービス / 生活介護 / 訪問介護 / 住宅型有料老人ホーム  
児童デイサービス / 相談支援事業所 / 訪問看護 / 就労継続支援B型

物を大切にし環境にやさしくありたい 使わない人から使いたい人へ  
総合リユースショップ DokiDoki 2nd STREET

**(株)トータル・リユース**

代表取締役社長 **伊瀬 幸郎**  
ise yukiyo

本社 〒026-0041 岩手県釜石市上中島町2-2-33  
TEL: 0193-21-2126 FAX: 0193-21-2127  
携帯 090-8780-3296  
E-mail: trise@arion.ocn.ne.jp

**オリジナルラベル  
ワインを作成します**

周年記念、御中元、お歳暮、ノベルティ等

SHIWA 紫波  
自園自産ワイン 紫波  
岩手県紫波町産ぶどう100%

社名ロゴ写真OK 包装、のし無料 12本以上作成料無料

お申し込み・お問い合わせ  
**Tel. 019-676-5301**  
自園自産ワイン紫波 (株)紫波フルーツパーク  
醸造元  
〒028-3535 岩手県紫波郡紫波町遠山字松原1-11

人と自然にやさしい  
環境を創り  
地域型企業として  
貢献します。

浄化槽 浄化槽の点検・修理・清掃・点検  
住宅設備の「水」サービス  
水まわりのリフォーム  
北上市建設事務所  
岩手県北上市の建設事業  
2014年11月17日

岩手日化サービス株式会社  
〒020-0402 盛岡市黒川 22-56  
TEL 019-696-5611 FAX 696-5614

注文すると「明日」来る。  
オフィス・事務用品通販なら「アスクル」で

日用品 消耗品 文房具 飲料 工具

外出せずにFAX、Webにてご注文できます！  
ご登録・お問い合わせは平金商店へお待ちしております。

<https://www.askul.co.jp/ag/hirakin/>

**ASKUL AGENT** 株式会社 平金商店  
アスクルエーгент TEL: 019-624-2121

ゆたかな幸せのために、より良い環境創りで  
真の循環型社会を目指します。

浄化槽保守点検 植物 BDFの製造・販売 エネルギー 紫波町  
光合成 CO2 BDF燃料

**紫波環境株式会社**  
岩手県紫波郡紫波町南日詰字小路70-1  
TEL: 019-672-2656 FAX: 019-601-2686  
<http://shiwakankyo.com/>

し尿・浄化槽汚泥収集運搬

**「企業変革支援プログラム ver2」**

自社の立ち位置を明確にして  
社員とともに目指す企業像

「企業変革支援プログラムステップ1」「企業変革支援プログラムステップ2」を1冊にまとめ、全面改訂

A4判、80ページ。  
定価 2,200円  
(本体価格 2,000円+税)  
2022年10月発行

**Southern Iwate DSG** サザン岩手ドライビングスクールグループ  
Southern Iwate Driving School Group

陸前高田ドライビングスクール 三陸技能講習センター  
RIKUZENTAKATA DRIVING SCHOOL Sanriku skill training center

平泉ドライビングスクール 遠野ドライビングスクール  
HIRAIZUMI DRIVING SCHOOL TOHNO DRIVING SCHOOL

携帯サイトはこちら  
<http://www.si-dsg.com/mobile>



DOYU  
I W A T E  
同友いわて  
Vol. 179

発行 2024年10月1日発行  
発行所 岩手県中小企業家同友会  
広報委員会

〒020-0878 岩手県盛岡市肴町4-15 カガヤ肴町ビル3F  
TEL 019-626-4477 FAX 019-626-1644  
Mail: info@iwate-doyu.jp